震災発生直後におこなわれた「反貧困集会 in あいち」

大山小夜

2011年3月13日，「反貧困集会 in あいち ～がんばろう 東北，関東」が名古屋市の金城学院大学で開かれた．当初，この集まりは，国内の貧困問題に取り組む全国組織「反貧困ネットワーク」(07年結成）が関わる4回目の「反貧困フェスタ」として，地域組織「反貧困ネットワークあいち」(10年結成，以下，あいち)，反貧困ネットワーク並びに県内諸団体・諸個人からなる「反貧困フェスタ現地実行委員会」が企画・準備したものだった．ところが，開催2日前の3月11日に東日本大震災が発生．検討の末，「反貧困フェスタ」は冒頭の名称に変え，内容も変えて実施した．

集会では，「全体会（午前／午後の部)」「8分科会（当初予定していた1つは地震の影響で中止)」「1自由企画」「27団体28ブースの出展」が催された．各所に募金箱を設けて被災地への義援金を呼びかけた．

全体会（午前の部）では，「派遣切りから2年」と題し，派遣切りが全国最多の愛知県の今を，「豊田市保見団地の外国人労働者家族」「長年トヨタの労使研究をされている猿田正樹中京大学教授」へのインタビュー映像と，「豊田市で弁護士を営む梅村浩司氏」「正社員である夫を過労死で亡くした内野博子氏」による会場報告を通じて問題提起した．海外からは韓国で貧困問題に取り組む「貧困社会連帯」が来日．ソウル再開発の実情を描いたドキュメンタリー『去ることができない人たち』を，同行した監督が背景説明した．

分科会では，「子ども」「労働」「社会的に排除された人たちの就労」「居住」「移住者」「女性」「生活保護」等のテーマがそれぞれ扱われた．東海社会学会研究企画委員会主催「第9分科会　現代社会における貧困と拝外主義」は，全分科会のうち唯一学術団体によるもので，東海圏の市民と研究者が交流や議論を深める貴重な場となった．

全体会（午後の部）では，貧困社会連帯のチェ・イエリュン事務局長とあいちの樽井直樹事務局長，森弘典事務局次長が「貧困を克服する課題」を論じ合った．反貧困ネットワーク代表の宇都宮健児氏は「今回の集会は被災地に対する配慮に満ちたすばらしい集会だった．何としてでも参加しようと思い参加したが，本当に良かった．韓国の皆さんが参加して集会が開かれたのは初めて．国際的にもつながりができ，たいへん実りのある集会だった．貧困の解消への希望はこうした広がりの中にこそある」と述べた．震災の影響で参加できなかった反貧困ネットワーク事務局長の湯浅誠氏のメッセージも読み上げられた．最後に，「子ども，虐待，非正規雇用，低賃金，失業，ホームレス，高齢，障がい，女性，ひとり親，DV，セクシュアル・マイノリティー，難病，多重債務，外国籍，移民，先住民族，そして，災害など様々な状況のもとで『貧困』に苦しむ人たちが，人間らしく生きる権利を保障され誇りを持って生活できるよう，一人ひとりが今後も共通の課題に向けて行動すること」を確認した集会宣言「今こそつ

ながろう！　人間らしい生活を求めて」が採択．参加者は660名，義援金38万余円は後日，全額を中日新聞社会事業基金に寄付した．

集会参加者は，現在，従来の取組みに加えて，原発等による愛知県への避難者，震災の影響を受けている自営業者・労働者の支援にとりかかっている．

最後に，本集会への参加を決定されました東海社会学会会長の黒柳晴夫先生，理事会の皆様，分科会を実施されました研究企画委員会の後藤澄江先生，樫村愛子先生，分科会の企画と話題提供をされました森千香子先生，集会に参加されました多数の会員の皆様がたに心よりお礼を申し上げます．

（大山小夜：反貧困集会 in あいち現地実行委員会副委員長　金城学院大学）